

## 令和2年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業		評価欄 B
協働事業者	特定非営利活動法人 セカンドリーグ茨城	市担当課	泉町周辺地区開 発事務所
事業の概要	<p>本事業は，“まち”を体験するイベントやワークショップ等を通し、泉町のパブリック空間活用の方策等を、計画段階から市民協働により検討を進める。事業運営にも、市民の参画を促すことで、市民の地元に対する愛着を育み、持続的で魅力的な“まち”の形成につなげていくことを目的としている。</p> <p>令和2年度はコロナ禍のため、みち遊び、Farmers Market の開催は中止となったが、Google フォームを活用した泉町周辺の公共空間活用のヒアリングを実施した。また、回答者のうち抽選で50名を対象とした「有機野菜セット」のプレゼント、「農家めし」の試食会を開催した（令和2年10月24日）。また、「ZOOM」を利用したワークショップも開催した（令和3年2月26日）。</p>		
委員会意見	<p>本事業の目的である、泉町のパブリック空間活用の方策等を社会計画によるプランに留まることなく、コミュニティ開発の視点で、計画段階からの市民協働、市民参画による“まち”を体験するイベントやワークショップ等を通し検討することは、非常に有意義であるといえる。令和2年度は、コロナ禍のため、残念ながら計画していた事業の変更せざるを得ない状況となり、協働事業者、市担当課共に不本意であったと推測されるが、一方で、オンラインを活用するなど、計画を柔軟に変更しながら事業を実施したことは評価したい。</p> <p>しかしながら、Google フォームでのヒアリングの回答数及び「ZOOM」を利用したワークショップの参加者数は、想定を大きく下回っており、周知不足を感じた。</p> <p>今後は、泉町のパブリック空間の活用を検討していくために、幅広い年齢層で、かつ、より多くの市民が参画できる手法を十分に検討の上、事業を実施してもらいたい。</p>		

## 令和2年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	国田地区の名所・史跡探訪を通じた魅力再発見プロジェクト		評価欄 B
協働事業者	国田歴史学習会	市担当課	市民生活課
事業の概要	<p>本事業は、地域の人々によって守り継がれてきた歴史性のある文化遺産を、地域が主体となって掘り起こし、地域の魅力発見につなげるとともに、名所・史跡等の選定過程やウォーキング事業による地区間交流を通じ、近年希薄化しているコミュニティの復活を目指すことを目的としている。</p> <p>令和2年度は、案内板を設置するとともに、「田園ウォーク in 国田」（令和2年10月25日）や「史跡めぐり見学会」（令和2年11月29日）を開催した。また、わくわくプロジェクト3年間の集大成として、「国田地区魅力再発見マップ」を作成した。</p>		
委員会意見	<p>令和2年度も前年度に引き続き、名所・史跡の案内板の設置を進めるとともに、「田園ウォーク in 国田」や「史跡めぐり見学会」など、参加型のイベントを開催し、より多くの人々と交流することができた。コロナ禍であったにも関わらず、多くの参加者を集め、無事に事業を終えたことは評価したい。引き続き、将来の水戸を担う子ども達をはじめ、多世代の人々が気軽に参加することができるよう、イベントの充実を図っていただきたい。</p> <p>また本事業が、国田地区の情報を掘り出したことは意義深い。3年間の集大成として「国田地区 魅力再発見マップ」を作成し、この事業が非常に充実したものであったことをあらためて感じる事ができた。このマップの完成を出発点として、今後は、歴史に関心のある方だけでなく、関心のない方や地域の子ども達に対しても、国田地区の魅力を再発見できる仕組みづくりを継続して取り組んでいただきたい。</p>		

## 令和2年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	LD, HSC の子どもが育つ環境を整える事業		評価欄  A
協働事業者	じゃあまいいかねっと	市担当課	障害福祉課 総合教育研究所
事業の概要	<p>LD（学習障害）やHSC（人一倍敏感な子）などの特性がある子は、周囲から誤解を受けやすく、適切な支援を受けられないことがある。本事業では、そのような子ども達に気づき、LD や HSC といった特性を正しく理解し、適切な支援を行うことができるよう、学習に困難がある子どもへの支援を学ぶ講座や学びのサポート養成講座などを実施することを目的としている。</p> <p>令和2年度は、発達性ディスクレシアの子どもの学習支援（動画講座）、支援者のための発達性ディスクレシア研修会（令和2年12月3日）及び学びのサポーター養成講座（4回連続講座）等を実施した。</p>		
委員会意見	<p>LD（学習障害）やHSC（人一倍敏感な子）といった特性を持つ子どもに対しては、適切な支援が求められるが、それらの特性に関する知識や情報不足から、その存在が認知されにくいという現状にある。それらの特性を正しく理解することで、そのような子ども達に気づき、適切な支援を行うことができるよう、協働事業者並びに障害福祉課及び総合教育研究所が連携して取り組んでいる本事業は、社会的課題を的確に捉えており、貴重な活動である。また、多くの事業を実施することができたことについても、一定の効果があったと考えられる。</p> <p>一方で、協働事業とは、コミュニケーションを取りながら進めていくものとするが、3者間で話し合うための十分な時間が確保できなかったなど、協働事業を進めるにあたって根本的な課題があると感じた。</p> <p>今後、本事業を継続して実施していくためにも、今一度、協働事業者と市担当課の役割分担を双方で確認し、お互いに無理のないよう、実施できることと実施できないことについて検討の上、十分にコミュニケーションを取りながら事業を進めていただきたい。</p>		

## 令和2年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	介護助手養成 ちいすけ水戸		評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人 ちいきの学校	市担当課	介護保険課
事業の概要	<p>本事業は、介護職が専門職の高い業務に専念できるよう、アクティブシニア層を対象に、介護職の周辺業務（話し相手や軽作業等）を担う「介護助手」として育成、就労を促し、介護サービスの質の向上につなげる。また、アクティブシニアが社会参加することで、心身の健康維持を図り、「地域で支えるいきいき健康と安心長寿」の実現をサポートすることを目的としている。</p> <p>令和2年度は、介護助手の養成を目的として「ちいすけ水戸」講座を年4回実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業の目的は、「元気なシニア」・「事業者」・「利用者」の3者に『いいこと』が生まれる地域社会の実現のため、元気なシニアが社会参加することであり、実施した事業は社会のニーズをとらえており、充実している。また、初年度にもかかわらず、講座には67名が参加し、そのうち9名が介護助手として就労したことは評価できる。</p> <p>一方で、介護助手を雇用した事業所への連絡だけに留まっていることから、今後は、就労した介護助手へのアフターフォロー、介護助手同士が交流できる場づくり及び講座受講者へ終了証書などを発行することにより、介護助手の方が安心感と自信をもって就労することができる環境づくりについて検討していただきたい。</p> <p>今後も、ますますニーズが高まるであろうアクティブシニアの方々の活躍の場の提供を継続するとともに、高齢社会に不可欠となるであろう「三方よし」の仕組みの構築を目指していただきたい。</p>		

## 令和2年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	親子で楽しむ森あそび 森っこ		評価欄 A
協働事業者	森っこ	市担当課	農政課
事業の概要	<p>本事業は、乳幼児とその保護者が森を含む身近な自然の中に気軽に集まることができるよう、「森っこ」活動を実施する。子どもたちは五感を使ってのびのびと育まれることにより、健やかな成長を促すことができるとともに、大人には心を開放し元気になっていただくため、様々な自然体験を通じ、身近な自然、草花、生き物を大切に思う豊かな心や自然と共生する小さな芽を育むことを目的としている。</p> <p>令和2年度は、水戸市森林公園、保和苑、逆川緑地等で年間23回の「森っこ活動日」を開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、身近な自然を親子で楽しむ場を提供し、年間23回の開催を行っている。この2年間、多種多様な企画を定期的実施していることは非常に評価できる。また、参加者は年々増加しており、これまでSNS等を利用した広報活動を地道に行ってきたことで、森っこ活動が参加者の口コミにより多くの親子に認知されてきたことは非常に素晴らしい。</p> <p>「事業の拡大ではなく、地域に根ざした活動は、現状維持をすることが大切である。」という代表者の言葉に、これまでの活動に対する信念を感じ、感銘を受けた。一方で、森っこの活動を必要としている親子が多いと強く感じることから、この活動を他者へ広めること及び自主財源を確保する方法を検討するとともに、安定的かつ継続的な事業となるよう、より多くの親子が参加できる仕組みをぜひ実現していただきたい。</p> <p>令和3年度の事業が最終となるが、さらなる活動の飛躍を期待している。また、これまでの活動を継続しつつ、令和4年度以降も自立して事業を実施するための準備期間としていただきたい。</p>		

## 評価過程・評価基準

### 【 評価過程 】

5月28日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

### 【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×10人＝200点満点

			採点基準
A	評	価	150～200点
B	評	価	100～149点
C	評	価	50～99点
D	評	価	0～49点

### ☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o ( 実 行 )	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k ( 評 価 )	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n ( 見 直 し )	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5